

## 仔犬の社会化期

犬の性格には遺伝的な素因に加えて、幼い頃の生活環境が大きく影響します。特に社会化期と呼ばれる生後3週齢から12週齢頃の時期の環境は最も重要と考えられています。

この社会化期とは、動物が幼い時期に他の仲間との絆を形成する時期のことです。自然界ではこの対象は普通、母親や兄弟などの同種の動物ですが、我々人間が飼っている動物は人間とのつながりを形成していくこととなります。

仔犬の生後2ヶ月頃は人間でいう3歳頃に相当しますが、「三つ子の魂百まで」という言葉がありますように、この時期は仔犬にとっても非常に大切な時期なのです。

### 犬・人・その他の動物との社会化

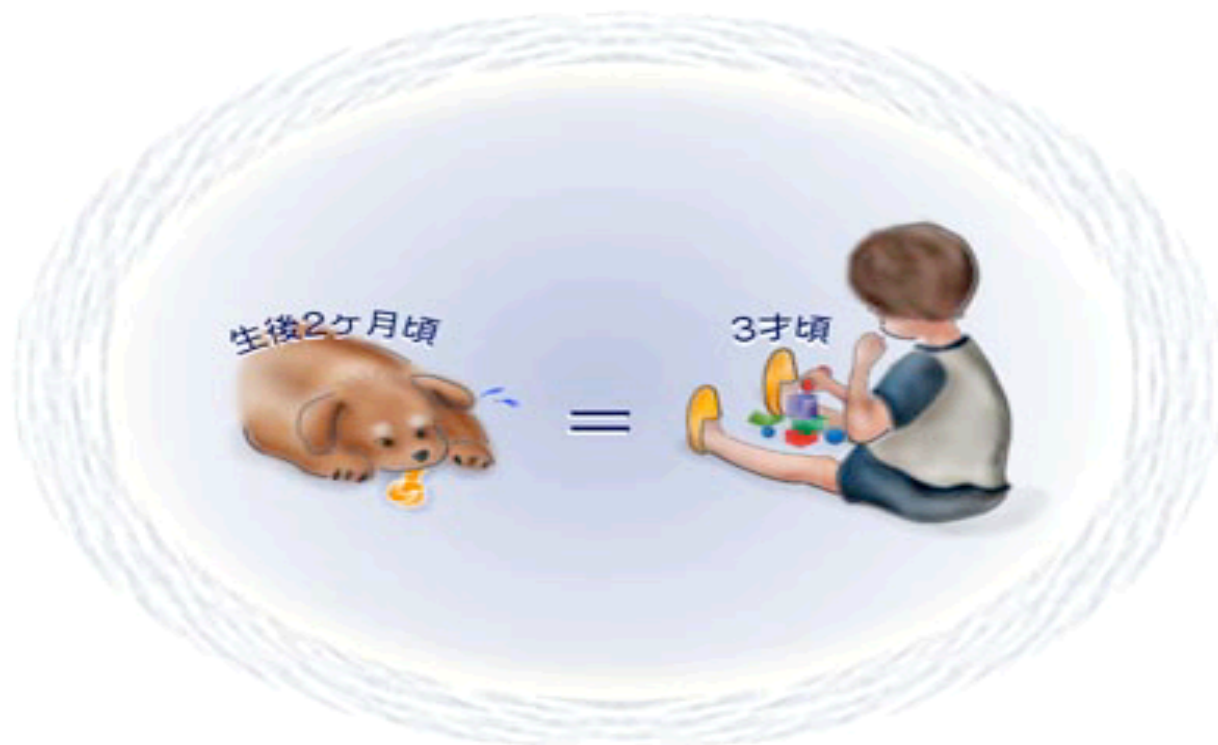
社会化期に仔犬はまず母親や兄弟の犬達との絆を結びます。我々がペットとして飼っている犬は、同時に人との絆も形成していきます。同じように、この社会化期にはその他の種類の動物との絆を結ぶことも出来ます。

私達の身の回りにも違った種類の動物でありながら、まるで友達や家族のように仲良く暮らす動物を見ることがあります。仔犬が人間である私達をまるで母親のように慕うように、社会化期に一緒に過ごした動物は異なる種であっても仲間として受け入れるようになるのです。

その反面、この時期母親や兄弟から離されてしまい他の犬との接触がないと、犬でありながら、他の犬とうまくつき合えない犬に育ってしまう可能性もあります。

仔犬は母犬や兄弟との接触を通じてさまざまな社会的行動の基礎を築きます。従ってあまり早くに母犬や兄弟と離してしまうと、成長してから行動上の問題が見られる場合があります。

人にはとても友好的なのに、他の犬に会うと過剰に興奮したり、ひどく怯えてしまう犬がいます。飼い主さんは「この子は自分のこと犬だと思ってないの。」なんて笑っていますが、やはり犬が犬同士でコミュニケーション出来ない事は残念なことです。



仔犬が犬との社会化をするためには、母犬や兄弟犬からあまり早くに離さないこと、社会化期には他の犬と遊ぶ時間を十分作ってあげることが大切です。

## 子犬の入手時期

仔犬が母親や兄弟との絆を築くためには生後7-8週令頃まで一緒に過ごす方が良いと言われていいます。しかも最初の飼い主さん（あるいはブリーダーさん）に充分かわいがってもらえることが出来れば、人との社会化も早くにスタートできます。

そしてこれからずっと一緒に暮らす事になる新しい飼い主さんの所にも社会化期の頂点とも言われるこの時期（7-8週令）に行けば十分に馴染む事ができます。そして母犬や兄弟達と分かれて新しい家に行った後も、出来るだけ他の犬と一緒に遊ぶ時間を作ってあげましょう。

## さまざまな環境に慣らす

社会化期の仔犬はまわりの環境に対しても寛容で、この時期に馴染んだものには大人になっても過剰な反応を起こさなくなります。従ってこの時期にいろいろなものに慣れることでその後に起きるさまざまな生活環境の変化を受け入れやすくなるのです。

自動車の音や雷の音、花火の音などさまざまな音に対する恐怖症を持つ犬は少なくありません。幼い時期にこれらの音に慣らしておくことによってこのような恐怖症を予防する事も可能です。これらの音をテープに録音して食事を食べている時や遊んでいる時などに、なにげなく聞かせておくと効果的です。

つまりこの社会化期に将来起こりうるさまざまな環境を想定してあらかじめ仔犬を慣らしておく、大人になってからよりずっと簡単にしかも確実に慣らすことができます。

## 注意！

ただしさまざまなものに慣らす時に怖い思いをさせないように気をつけなければいけません。たとえば大

きな犬に慣れさせようとして、相手の犬が咬みついてひどく痛い思いをしたら、犬に慣れるどころか犬恐怖症になってしまうかもしれません。この時期のころの傷は、生涯にわたって影響を残すことがあります。

私の所に問題行動の治療にやってきた犬で抱っこ恐怖症の子がいました。生後2ヶ月の頃に子供さんが抱っこして落ちてしまったことがきっかけで人がさわったり、抱っこしようとするとひどい恐怖反応を示すようになってしまったのです。幸い飼い主さんの大変な努力で、今ではこの子は恐怖反応を示すことはなくなりましたが、ほとんどの恐怖症の治療には長い時間と地道な努力が必要です。

問題行動を予防するつもりが、逆に問題を作ってしまうように飼い主であるあなたが十分見守ってあげられる状況で、さまざまなものに慣らしてあげましょう。



このペーパーは株ペット・ペット社が提供する

PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.

Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp

<http://www.ikikoku.com/pet.html>